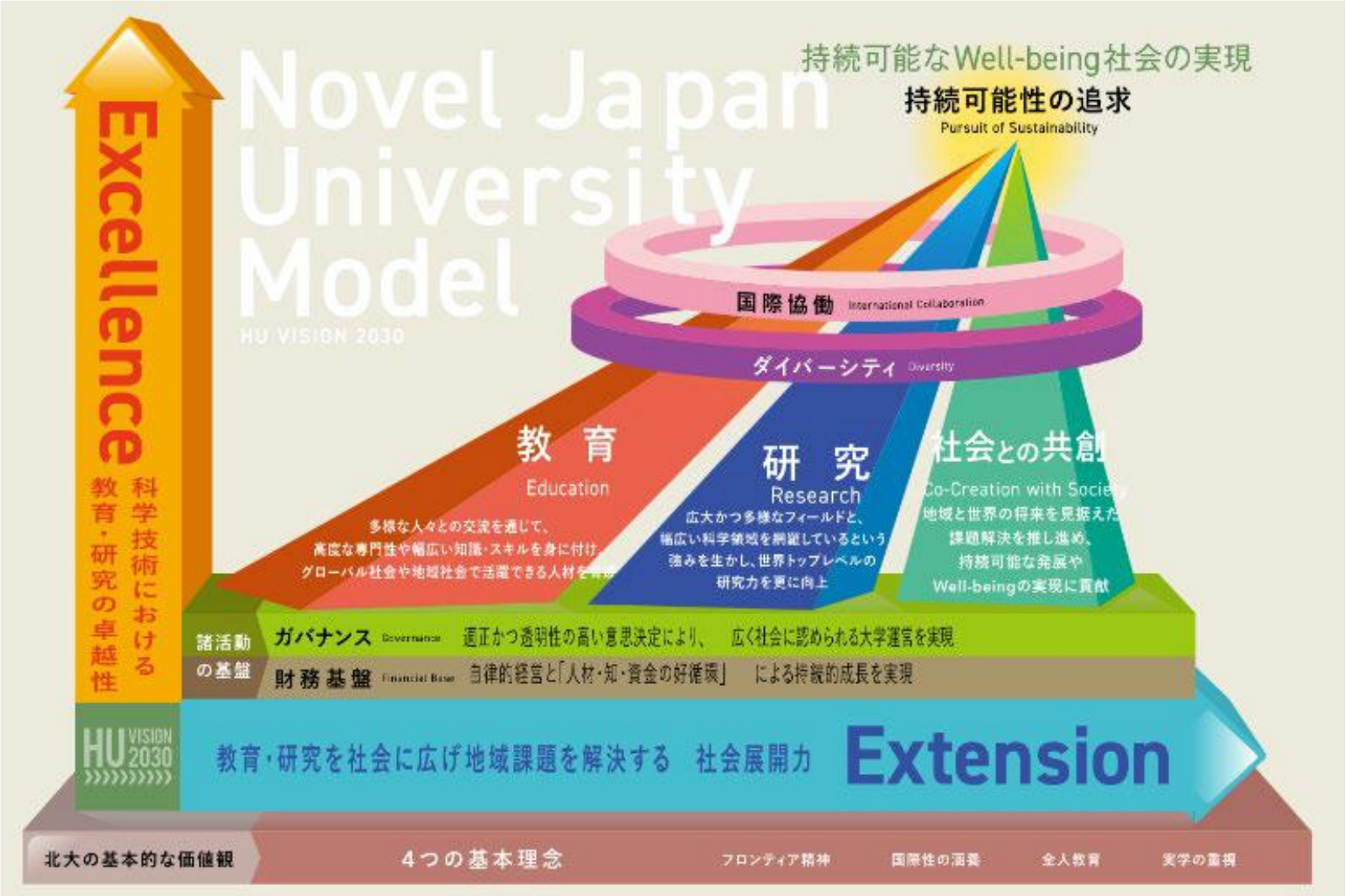
北海道大学

「DX提案実践演習1・2」
「DX課題解決実践演習」
～合同履修説明会～

「課題解決DX人材コンソーシアム」担当
石森　浩一郎・高橋　正行・土井　將義

HU VISION 2030（北海道大学2030年のあるべき姿）



Excellence と Extension の融合による未来社会の開拓者育成プログラム（EXEX博士人材フェローシップ）

課題解決DX人材コンソーシアム

DXの道内展開・デジタル人材の育成によるSociety5.0推進のためのプラットフォーム

共同研究型インターンシップ

博士課程（前期・後期）大学院生

・リアル企業における生データを活用した分析を実践
・道内企業の成長発展に向けた課題の把握
・道内企業のDX推進に貢献した経験実績、その他

道内企業・地方自治体

・保有するデータの分析により課題の把握
・データ解析により新たな成長戦略の創出
・ DXの推進による業務改善、新たなビジネス展開、その他

共創教育センター

大学院教育推進機構 | 機構と産学・地域共働推進機構による共同設置

数理・データサイエンスセンター

Ph.Discover

北海道大学【中核機関】

・参加学生の募集
・参加企業との派遣調整
・研究成果のとりまとめ
・企業との守秘義務に係る契約
・派遣に係る費用負担

課題解決DXコンソーシアム

共同研究型インターンシップの共通プログラムの作成／研究結果の検証、公表

道内経済団体

・参加企業の募集
・会員団体や会員企業に対する周知・展開

経済連合会

商工会議所連合会

IT推進協会

D4cアカデミー

日本オラクル

TIS北海道

道内IT企業

DXアドバイザー

・学生に対する基礎的なDX教育
・課題解決のアドバイス

行政機関

・デジタル人材育成協議会での情報共有
・事業成果の周知・展開
・参加企業に向けた各種補助事業等の紹介

北海道経済産業局

北海道

共同研究型インターンシップ

DXによる地域や企業の課題抽出・解決とそれを推進できるDX人材の育成

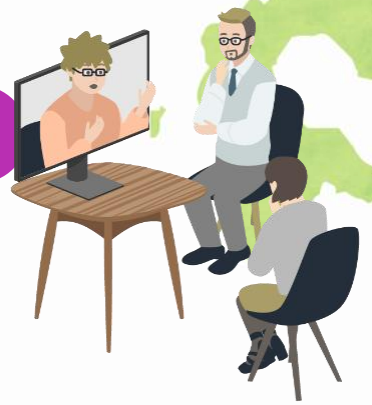
インターンシップのタイプ

集中派遣型

企業に滞在し、問題解決を行う
（1名or複数名チーム）
期間：2週間～2ヶ月程度

定期的派遣型

1週間に1～2日程度、定期的に出社またはリモートワークしながら、問題解決を行う（1名or複数名チーム）
期間：3ヶ月～半年程度



グループワーク型

複数の学生がグループワークを通して解決策を検討／提案する
基本的にはオンラインでの打ち合わせにより進め、必要な際にのみ出社する
期間：半年～1年程度

こんなお困りごと、ありませんか？？

顧客アンケートの活用
方法が分からない

分析テーマの設定（現状の課題）
が分からない
データはあるが有効活用できない

データを活用するイメージは
あるが、分析する人がいない

検証する方法が分からない

データ活用の効果が継
続できない

現状分析

テーマ設定

課題解決/仮説設定

効果検証

継続検証

SIP事業：ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築

SiP 戦略的イノベーション創造プログラム
Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program

Google 提供

国立研究開発法人 科学技術振興機構 Japan Science and Technology Agency

>お問い合わせ・ご意見・ご要望

研究課題の紹介　研究課題の成果

ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築

研究開発内容

本課題は、内閣府の「社会実装に向けた戦略及び研究開発計画(令和5年3月16日決定)※」に基づき、いつでも・どこでも、自分の望む学び方・働き方を(に)選択・挑戦でき、さらにはそのような環境が、個人の特性や価値観、地域の状況等に関わらず保障される社会の実現、つまりは、Society 5.0を生きる一人ひとりが、多様な幸せ(well-being)を実現できるフラットな社会を達成することを目指しています。

このような将来像を実現するために、本課題の研究開発では、サブ課題A～Eを設定し、サブ課題Dにおいて、地方に「新たな『学び』」×働き方×バーチャル空間の「場(プラットフォーム)」を構築し、サブ課題A～Cを有機的に連携させながら、統合して実証することで、目指す将来像を先取りしたショーケースを提示します。

また、サブ課題Eでは、サブ課題A～Dにおける研究開発や実証を通じて可視化される制度的・経済的・心理的な課題等をすくいあげ、その解決策の検討を各サブ課題にフィードバックすることで、「新たな『学び』」や「働き方」を保証する社会基盤の構築を図ります。

これらの取組によって、Society 5.0を地方から実現し、最終的には、日本全体をSociety 5.0の目指すべき未来社会に導くことを目指しています。

研究課題の紹介

- ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築
- 新着情報

SIP事業：ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築：概要

サブ課題A 「新たな『学び』」のデザイン開発

- a-1 アップスキルとリスキルのための教育コンテンツの開発（デジタル・STEAM等に係る知識）
  - ①STEAM教育のためのコンテンツプラットフォームの構築
  - ②デジタルリスキリングの教育手法の開発
- a-2 探究力・主体性・創造性・協働性を高める教育コンテンツの開発
  - ①学校教育における探究力・主体性・創造性・協働性を高める教育コンテンツの開発
  - ②主体的な進路意思決定のためのコンテンツ開発
- a-3 学習データの取得・連結・活用（w/ELSI）
  - ①学習データの取得・連結・活用手法の開発
  - ②データ取得等に係るELSI的観点での研究開発
- a-4 「新たな『学び』」に対応した評価手法の開発
  - ①「新たな『学び』」に対応した評価手法の開発」

新たなデザインの展開 ↓ ↑ フィードバック

サブ課題D 「新たな『学び』」×働き方×バーチャル空間における有効性確認（ショーケースの提示）

- d-1 新たな学び方・働き方を可能とする場（プラットフォーム）の構築及び当該場（プラットフォーム）を活用した取組に係る効果検証
  - ①初等中等教育を中心とした「新たな『学び』」の場（プラットフォーム）の構築及び効果検証
  - ②教育機関と地域・社会との接続による「新たな『学び』」の場（プラットフォーム）の構築及び効果検証
  - ③教育機関と地域・社会との接続による新たな働き方の場（プラットフォーム）の構築及び効果検証

フィードバック ↙↗ 新たな社会的価値の提唱　　フィードバック ↘↖ 要素技術のチューンアップや擦り合わせ

サブ課題B 「新たな『学び』」と働き方との接続

- b-1 多様な働き方モデルの構築及び「新たな『学び』」を担うメンター制度のさらなる推進、D&Iの社会浸透
  - ①教育と就労の連結による働き方モデル提示に係る研究開発・実証
  - ②D&Iの社会浸透に向けた実証研究
- b-2 イノベーション人材の育成、社会人のリカレント、リスキリング
  - ①総合知で社会を変える博士人材育成プログラムの実証
  - ②サバティカルやワーケーションを活用した社会人の学び直しのインセンティブの研究

サブ課題C 「新たな『学び』」と働き方の空間の創出

- c-1 ギャップフリーなバーチャル空間の実現
  - ①「働き方」におけるバーチャル空間の開発
  - ②「学び方」におけるバーチャル空間の開発
- c-2 バーチャル空間における学習コンテンツの開発
  - ①バーチャル空間を活用した学習コンテンツの開発・実証

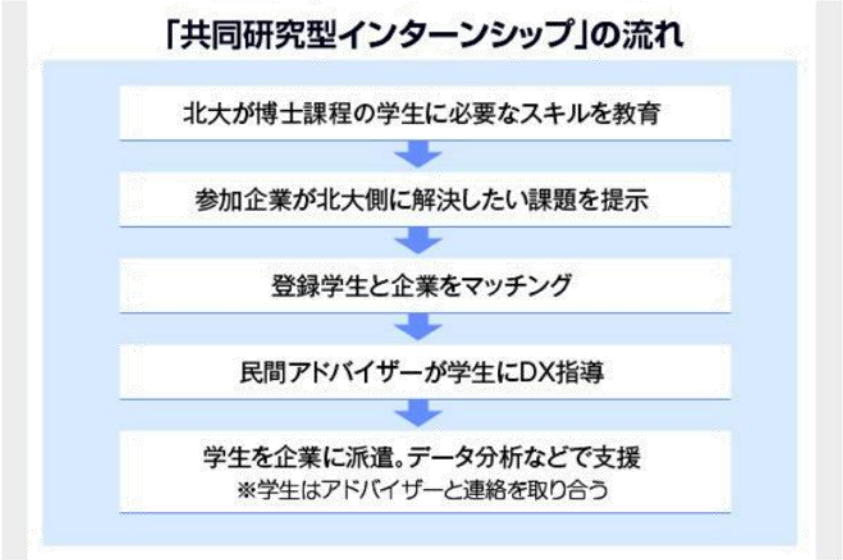
サブ課題E 「新たな『学び』」を保障する社会基盤の構築

d-1-② 教育機関と地域・社会との接続による新たな『学び』の場（プラットフォーム）の構築及び効果検証（**共創教育の場**）

課題解決DX人材コンソーシアム：メディアも注目

北大、ＤＸ人材派遣で企業支援　博士課程の学生がデータ分析　産学官連携で事業体

北海道新聞　2024年1月17日電子版、1月22日朝刊1面掲載



北大は新年度、デジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）の教育を受けた大学院博士課程の学生をインターンシップで道内の中小企業に派遣し、データ分析などで課題解決に役立ててもらう事業に乗り出す。デジタル関連の知識を学んだ学生の多くは就職で道外に流出している。在学中に地元企業と接点を持たせることで、道内に活躍の場を見いだす人材を増やし、地域貢献につなげる。

Ph.Discover
博士人材の未来を拓くウェブマガジン

About　Archives　Categ

「共同研究型インターンシップ」で北海道大学・室蘭工業大学の大学院生と協働してみませんか？

Information

Update
2024.01.18

Categories
MESSAGES , CAREERS , NEWS

Keywords
#DX , #IT分野 , #インターンシップ , #キャリアパス , #データサイエンス , #大学院生

Ph.Discover
博士人材の未来を拓く
ウェブマガジン

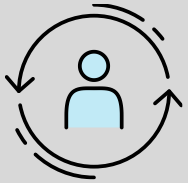
北海道大学

共同研究型インターンシップの流れ

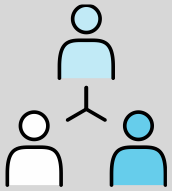
DXアドバイザーの継続的な支援による課題解決とDX人材育成

1
参加組織からの
課題の提示

2
DXアドバイザー
の決定



3
学生との
マッチング



4
DXアドバイザー
が選抜学生にDX教育

5
問題解決に取り組む

DXに関連する大学院共通授業科目

DXに関する基礎的知識を習得し、さらに、社会で必要とされる応用・実践能力を涵養するために、企業や自治体が抱える課題に対して、データに基づいて課題解決提案を行う授業科目を実施

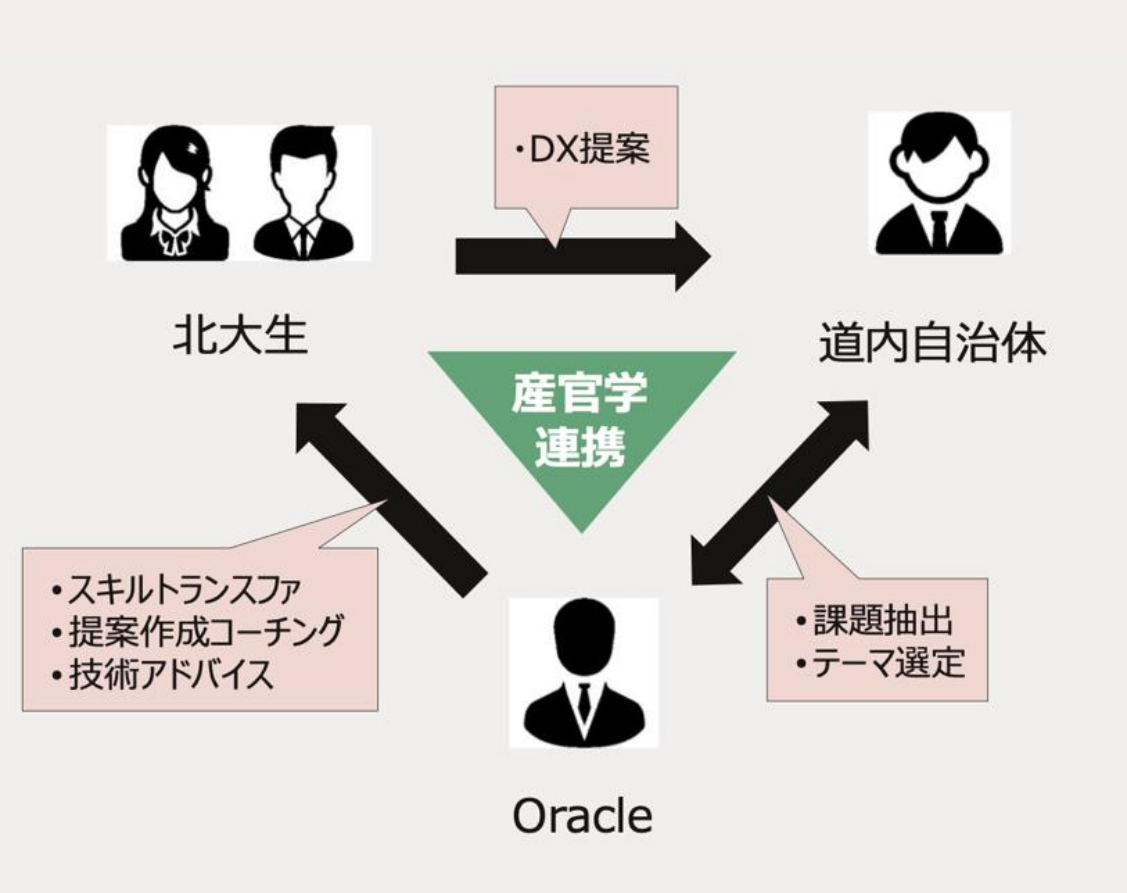
「DX提案実践演習1（地域課題解決に向けたDX提案）」

「DX提案実践演習2（地域課題の社会実装に向けたDX提案）」

「DX課題解決実践演習（共同研究型インターンシップ）」

「DX提案実践演習１ ―地域課題解決に向けたDX提案― 」

学生が民間IT企業（日本オラクル株式会社）に就職したことを想定し、自治体（富良野市、石狩市）をクライアントとしたときに、地域課題に対してIT技術・データを活用して解決していくDX提案を行う



学び × 地域課題解決

課題の絞り込み → 情報の整理 → 仮説立案・検証 → DX提案

➢ 最終報告として各自治体の市長に提案を行う

「DX提案実践演習１ ―地域課題解決に向けたDX提案― 」　R3～R5年度の取り組み

令和３年度（富良野市）

博士後期課程（物質科学系）
8名が参加

テーマ1：ワイン
「ふらのワイン」の販売増を通じた、
地域特有産業・農業の維持・発展

テーマ2：リサイクル
リサイクル率90%の富良野のゴミ分別
文化を維持・発展させる取り組み

令和４年度（富良野市）

博士後期課程（理系）10名
＋北電社員2名が参加

テーマ1：環境
市民の省エネ行動変容による
カーボンニュートラルの促進

テーマ2：観光
富良野スキー場の若年層の顧客開拓

令和５年度（富良野市＋石狩市）

博士後期課程5名、修士課程8名
（理系：8名、文系：5名）が参加

富良野市

テーマ1：福祉
市民の健幸都市推進

テーマ2：観光
秋のゼロカーボントラベラーの若年層開拓

石狩市

テーマ：エネルギー（企業誘致）
「エネルギーの地産地消」を通じた
環境保全と地域活性化の両立

「DX提案実践演習１ ―地域課題解決に向けたDX提案― 」

クラウド・サービスを活用したデータ分析および可視化を通して、参加学生がグループで施策を検討

データ解析に加えて、実際に現地視察し、関係者から生の声を聞き、施策の提案に向けて役立てる

石狩市

石狩湾新港洋上風力発電所

REゾーン（データセンター）

富良野市

ぶどう果樹研究所

リサイクルセンター

富良野自然塾

富良野スキー場

スポーツセンター

「DX提案実践演習１ ―地域課題解決に向けたDX提案― 」　R3～R5年度 最終報告会

大学院生の分析力、発想力、企画立案力、プレゼン力に対して高い評価

R3年度：旧富良野市役所会議室

R4年度：新富良野市役所議場

R5年度：北大理学部大講堂

20220330 道北　(富良野)

北海道新聞　2022年(令和4年)3月30日(水曜日)

ごみ分別アプリ 楽しめる仕組みに

北大院生、市に提案 ワインの販売促進策も

【富良野】北大大学院博士後期課程の大学院生が、市内でのごみの分別・リサイクルの推進とふるのワインの売り上げアップを図る施策をまとめた。情報通信技術（ICT）を活用した地域づくり「スマートシティー」に取り組む市、ソフトウエア大手「日本オラクル」（東京）と連携して行って来た産官学共同プロジェクトの一環。市役所を訪れて、市幹部ら約30人を前に提案した。

プロジェクトは昨年8月に開始。大学院生8人がチームに分かれ、同社のクラウドサービスを活用して富良野の課題などに対するデータ分析を行ってきたほか、同1月に市内でフィールドワークも行った。

施策の提案は今月25日に実施し、ごみの分別やリサイクルを考えるチームは、警告シールが貼られる不適切な分別のごみを減らすためのアイデアを発案。警告シールが貼られたごみステーションの場所や枚数などに関する市のデータを分析したところ、月別では4月にシールを貼られるごみ袋が最も多いことが判明。大半の地区では別が適切に行われていると一方、リゾートの分別・リサイクルの推進地や新住宅地などでシールが多く貼られている傾向があることから、転入者や旅行者にも分かりやすく伝える方法が必要と説明した。

その上で、市のごみ分別アプリなどをしっかりと徹底してもらえるよう、通知の時期や頻度などの工夫や、アプリ内にクイズを設けて楽しみながら分ける方法を学べる機能などを提案。ごみ出し時に警告シールを貼る際にはタブレットを用いて、理由などを書くように記録に残すべきなどと提案した。

発表後、市幹部は「理由を記録するというのでは参考にしていきたい」とした。ただし、「ごみ収集員が同時進行でタブレットを使うのは非常に難しい」とも述べた。

一方、ワインの販売促進策は、オンラインショップの利用状況に関するデータを発売することで、新規顧客獲得につなげられるのではないかとしていた。

ごみの分別などについてのチームの一員で、博士課程1年の川口貴大さんは「地域の課題を解決するにはデータ分析に加え、『人』も重視しながらアイデアを考えていかなければならない」と話した。

副市長も目からうろこのアイデアとは

TECH+ 解説/事例記事 ― 2023. 4.11

◆ 目次
- ○ 週間人気ランキング
- ○ 副市長も目からうろこのアイデアとは

TECH+では、IT関連の解説/事例記事や日々の業務に役立つセミナーの開催情報を多数お届けしています。

今回は、日本オラクル、富良野市、北海道大学が産官学で進めているプロジェクト「北海道富良野市のスマートシティ推進支援」の終報告会のレポート記事をご紹介します。

○ 週間人気ランキング

[1位]
北大生が富良野市に課題解決策をプレゼン、副市長「目からうろこが落ちた」
https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230330-2639413/?&utm_medium=email&utm_campaign=20230411

[2位]
"ChatGPT全社導入"に舵を切ったパナソニック コネクト「失敗したっていい」
https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230329-2637316/?&utm_medium=email&utm_campaign=20230411

[3位]
話題の「ChatGPT」、月額20ドルの有料版「ChatGPT Pro」を使うべきか？
https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230403-2643315/?

「DX提案実践演習１ ―地域課題解決に向けたDX提案― 」令和6年度テーマ

「AIオンデマンド交通の利便性向上を目指して」（富良野市・石狩市 両自治体で同じテーマ）

石狩市「いつモ」

AIオンデマンド交通：
AIを活用した効率的な配車により、利用者予約に対し、
リアルタイムに最適配車を行う新たな公共交通サービス。
全国の自治体で実証運行が行われているが、事業として
完全な定着には至っていない。

富良野市「ふらのり」

過去の実証によって得られたデータを活用しながら、
関係者どうしがwin-winとなる事業化に向けて提案を行う。
部分的な実証も視野に入れる。

利用想定データ:
利用者ID、年代、性別、利用座席数、乗降車時間・ 場所、
予約方法、アンケート等

「DX提案実践演習１ ―地域課題解決に向けたDX提案― 」令和6年度プログラムスケジュール

	内容	所要時間	日程	場所
4月	DX入門セミナー	1時間	4/23	北海道大学
5月	テーマ説明会	1時間	5/23	オンライン
	学生追加募集			
6月	第1回ワークショップ（全体ビルディング、インタビュー準備）	3時間	6/21	北海道大学
7月	第2回ワークショップ（ロジカルシンキング、データ分析）	3時間	7/26	北海道大学
8月	フィールドワーク（オンデマンド交通体験、自治体とのディスカッション）	終日	8/22,30	富良野市、石狩市
9月	第3回ワークショップ（振り返り・課題カテゴライズ・テーマ軸決定・問い設定等）	3時間	9/19	北海道大学
10月	第4回ワークショップ（アイディエーション・アイディアプロト・実証計画検討等）	3時間	10/17	北海道大学
11月	第5回ワークショップ（プロト作成）	3時間	11/21	北海道大学
12月	フィールド実証/ワークショップ	終日	富良野:12/19 石狩：12/26, 1/8	自治体 /北海道大学
1月	第6回ワークショップ（最終発表に向けた資料の作成、プレゼン練習）	3時間	1/16	北海道大学
2月	第7回ワークショップ（最終発表に向けた資料の作成、プレゼン練習）	3時間	2/20	北海道大学
3月	最終発表	半日	3/21	北海道大学

「DX提案実践演習１ ―地域課題解決に向けたDX提案― 」 8月にフィールドワークを実施

・各自治体を訪問し、実際にオンデマンド交通の現場（車両、乗降場所、待合室等）を視察した。
・利用者や運行事業者にインタビューし、当事者の生の声に触れた。
・各自治体の担当職員からオンデマンド交通の現状について説明を受け、議論をすることができた。

富良野市：8月22日(木)

石狩市：8月30日(金)

「DX提案実践演習１ ―地域課題解決に向けたDX提案― 」 3月に最終報告会を実施

日時：３月21日（金）13:15～16:00
会場：北大理学部大講堂

持続可能な公共交通体系の確立
に向けた総合政策パッケージ

富良野市チームの発表

ふらのり２.０

北市長（富良野市）　加藤市長（石狩市）　本多執行役員（日本オラクル）

石狩市チームの発表

持続可能な公共交通体系の確立
に向けた総合政策パッケージ

「DX提案実習 ―地域課題解決に向けたDX提案― 」　北海道新聞地方版で紹介された

20240824 道北　(富良野)

「ふらのり」利用促進策探る

富良野　北大院生が現地視察

「ふらのり」の車両を見学する大学院生ら

【富良野】北大の大学院生ら、市が事業主体のAIオンデマンド交通「ふらのり」の利用促進策に取り組むことになり、22日に市内で現地視察や利用者らへの聞き取りを行った。

市と北大、ソフトウエア大手「日本オラクル」（東京）が産官学共同で2020年度から行っているデジタルトランスフォーメーション（DX）教育プログラムの一環。

「ふらのり」は予約制の乗り合い公共交通で、タクシーと路線バスの中間的な位置づけ。スーパーや病院、公共施設などの市街地と切力所の乗降場所があり、予約した時間に利用者が指定した区間をワゴン型の車両で送迎する。運行は平日午前9時から正午と午後1時から4時。運賃は中学生以上300円、小学生150円で、7月現在、利用登録者は478人。運行開始の2023年11月からの利用者はのべ3154人。

この日は10人の大学院生ら、車両や利用の多い乗降場所、少ない場所などを視察。利用者からタクシーより安く、便数が少ないバスより便利」「（予約なら）使いやすいアプリがあればいい」といった感想を聞いた。事業を統括する北大の石森浩一郎副学長は院生たちに「数字の裏側が豊かな生活と違うことがあるし」と、データ解析に偏らず、市民の声や実社会に即した提案を求めていた。

院生たちは同様のオンデマンド交通を運行している石狩市でも同様の取り組みを行い、来年3月に提案を行う予定だ。（中元悠治）

北海道新聞富良野版
（2024年8月24日）

20240904 道央　(石狩・当別)

「いつモ」の乗降場所などを視察する北大の大学院生ら（石狩市提供）

石狩市のオンデマンド交通「いつモ」

北大院生 利用促進策探る

産学官連携プロジェクト2年目 現地調査し来春提案

【石狩】市は、試験運行中のオンデマンド交通「いつモ」の利用促進に向け北大、ソフトウエア大手「日本オラクル」（東京）の3者による産学官連携プロジェクトを始めた。利用者の求めに応じてバスやワゴン車を走らせており、現在の1日当たりの利用者数は石狩市街地周辺の「通勤用」で30人台、買い物や病院利用などの「市内オンデマンド」で10人前。来年想定する本格運行に向けたDXや効率的な運用のあり方を探る。

「いつモ」は利用者がスマートフォンの専用アプリから予約する乗り合いシステム。2023年度から試験運行が開始され、昨年度までは約2年間の運行だった。本年度は運賃は「通勤用」300～800円、「市内オンデマンド」300円（小学生以下は半額）。利用者数は2023年5月時点で「通勤用」500人、「市内オンデマンド」1000人だった。昨年度はアプリ登録者がそれぞれ4354人、1126人で、市企画課は「徐々に浸透している」と話す。

ただし、本格運行のためには、さらなる利用増のほか運行の効率化も求められる。

8月22日には、北大の大学院生ら3人が石狩市を訪れ、市の担当者からいつモ」の概要について説明を受けたほか、「市内オンデマンド」便の乗車地である「イオンスーパーセンター石狩緑苑台店」内の乗降場所などを視察した。

院生は同様のオンデマンド便を運行している亀岡市でも同様の取り組みを行っている。市企画課は「石狩市ならではの課題を心に残したいとあるのだろう」と期待する。

産学官連携プロジェクトは昨年に続き2年目。昨年は市の風力発電などの再生可能エネルギーを使った企業誘致の促進や地域活性化を図る施策をまとめた。（国乗敦子）

©北海道新聞社

北海道新聞石狩・当別版
（2024年9月4日）

いつモ利用「住民の声聞いて」　石狩市の予約制交通、北大院生が調査

国乗敦子　有料記事

2025年3月25日 0:03

あとで読む

石狩市　フォロー

#石狩市　#石狩　#社会　#大学　#子育て｜教育　#北海道新着

石狩市のオンデマンド交通「いつモ」の利用促進策を発表する村山さん（左）と三田さん

【石狩】市内の買い物客や通勤者の求めに応じて車両を走らせるオンデマンド交通「いつモ」について、北海道大の大学院生2人が利用促進策をまとめた。利用状況のデータ分析や利用者の聞き取りを行った結果、利用者に偏りがあることや、複雑な利用方法に課題があることが判明。2人は21日に同大で、多くの人に利用してもらうために市職員と市民との意見交換会の開催などを加藤龍幸市長ら幹部に提案した。

北海道新聞石狩・当別版
（2025年3月25日）

「 共同研究型インターンシップ 」

北海道大学大学院共通授業科目
「DX課題解決実践演習（共同研究型インターンシップ）」
として実施

- 地域企業・団体が抱える諸課題に対し、DXアドバイザーの助言を受けながら、課題解決施策の提案をする
- 実社会においてDXがどのように課題を解決し、イノベーションを創出するのか、その現場を体験する

グループワーク型

- 複数の学生がグループワークを通して解決策を検討／提案する
- 基本的にはオンラインでの打ち合わせにより進め、必要な際にのみ出社する
- 期間：半年（前期、後期）

「共同研究型インターンシップ」　令和６年度前期の体制

参加企業：21社

- 北海道バリュースコープ(株)（札幌市）
- (株) インサイト（札幌市）
- (株) エイチ・エー・エルシステムズ（札幌市）
- 熊手フィールド(株)（札幌市）
- マスダプランニング(株)（札幌市）
- (株) いまい（札幌市）
- (株) Savon de Siesta（札幌市）
- (株) アイティ・コミュニケーションズ（札幌市）
- (株) 札幌メールサービス（札幌市）
- 日糧製パン(株)（札幌市）
- (公社) 北海道観光振興機構（札幌市）
- (株) 札幌カントリー倶楽部（札幌市）
- (株) 感動いちば（札幌市）
- ホテル ポールスター札幌（札幌市）
- (株) 丸金金田自動車（旭川市）
- メディプロホールディングス(株)（旭川市）
- (株) 湯の川プリンスホテル（函館市）
- (株) ヒューエンス（帯広市）
- (株) 日昌（室蘭市）
- (株) アルペン 美唄スノーランド（美唄市）
- 緑川木材(株)（上川郡愛別町）

DXアドバイザー：10社

- (株) D4cアカデミー
- フュージョン (株)
- クラウドファーム(株)
- TIS北海道(株)
- Fire Cracker (株)
- 日本オラクル(株)
- 日鉄ソリューションズ北海道(株)
- (株)ハイテックシステム
- SCSK北海道(株)
- ＮＴＴアドバンステクノロジ(株)

※参加企業ごとに２名の本学教員が伴走

参加学生：71名

- 修士課程　29名
- 専門職学位課程　3名
- 博士（後期）課程　35名
- 室蘭工業大学　4名

スケジュール

4月5日	履修説明会
5月	参加大学院生の募集・マッチング
	企業・DX アドバイザー・担当教員 顔合わせ
6月	前期インターンシップ開始
9月～10月	各企業の最終(経過)発表会を開催
11月19日	合同発表会（北大理学部大講堂・オンラインのハイブリッド開催）

「共同研究型インターンシップ」　令和６年度後期の体制

参加希望企業：17社

実施企業：6社

継続
(株) インサイト（札幌市）
(株) いまい（札幌市）
(株) Savon de Siesta（札幌市）
(公社) 北海道観光振興機構（札幌市）

新規
(株) ルピシア（ニセコ町）
(株) ミクロスソフトウェア（川崎市）

参加学生：16名

修士課程　　3名
博士(後期)課程　13名
（前期・後期継続が2名）

未実施企業：11社

継続
北海道バリュースコープ(株)（札幌市）
熊手フィールド(株)（札幌市）
(株) アイティ・コミュニケーションズ（札幌市）
(株) 札幌カントリー倶楽部（札幌市）
(株) 感動いちば（札幌市）
(株) 丸金金田自動車（旭川市）
メディプロホールディングス(株)（旭川市）
(株) 湯の川プリンスホテル（函館市）
(株) ヒューエンス（帯広市）

新規
(株) フジテレビジョン（東京都）
NEXCO東日本 (株) 北海道支社（札幌市）

スケジュール

10月	大学院生の募集・マッチング
11月	後期インターンシップ開始
2月～3月	各企業の最終発表会を開催

DXアドバイザー：4社

クラウドファーム(株)
TIS北海道(株)
Fire Cracker (株)
(株)ハイテックシステム

**※参加企業ごとに
２名の本学教員が伴走**

「共同研究型インターンシップ」　令和６年度の活動の様子

ワークショップ：TIS北海道(株)

打合せ：北海道バリュースコープ(株)

打合せ：(株)アルペン 美唄スノーランド

視察：マスダプランニング(株)

視察：メディプロホールディングス(株)

視察：緑川木材(株)

集合写真：(株)札幌カントリー倶楽部

集合写真：(株) Savon de Siesta

「共同研究型インターンシップ」令和６年度前期合同発表会

日時：11月19日（火）15:00～17:45
会場：北大理学部大講堂

9つの企業・団体を担当した19名の院生が登壇

参加者：会場:51名、オンライン:14名、録画視聴:12名

金田自動車チームの発表

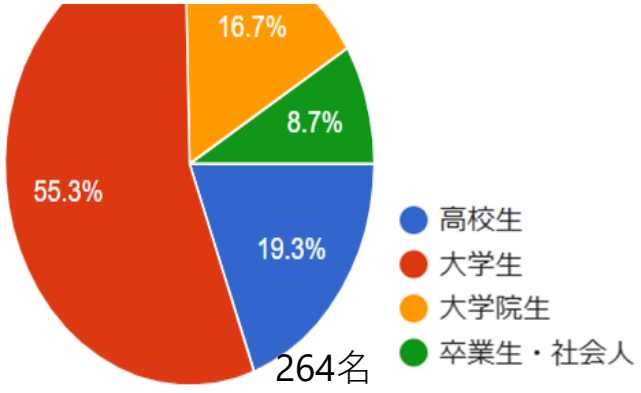
プログラム

15:00	開会挨拶（石森浩一郎 北大副学長）
15:05	（株）丸金金田自動車
15:20	北海道バリュースコープ（株）
15:35	（株）湯の川プリンスホテル
15:50	（株）ヒューエンス
16:05	（公社）北海道観光機構
16:20	休憩
16:30	（株）札幌カントリー倶楽部
16:45	（株）アルペン 美唄スノーランド
17:00	ホテル ポールスター札幌
17:15	（株） 感動いちば
17:30	全体討論
17:40	閉会挨拶（佐々木卓也 IT推進協会副会長）

「共同研究型インターンシップ」　(株)ルピシアチームの取り組み

課題：機械学習を用いた新たなブレンドティー開発

北大の三つの学部をイメージした形容詞やフレーズをアンケート調査



工学部

香り：スモーキー、ミネラル
味：　メタリック、ドライ

獣医学部

香り：ミルキー、草木
味：　まろやか、素朴

理学部

香り：ウッディ、薬品
味：　深み、シャープ

学部イメージを表現したお茶のレシピを開発する機械学習モデルを構築

入力データ
(学部イメージ)

→

機械学習モデル
(Artificial Neural Network)

→

出力データ
(ブレンドレシピ)

「共同研究型インターンシップ」　(株)ルピシアチームの取り組み

最終発表会：
２月27日（木）
＠ニセコ本社

試飲会：３月17日（月）＠北大エンレイソウ

工学部　理学部　獣医学部

「共同研究型インターンシップ」　メディアでの紹介

20240122 朝刊 （1面）

北海道新聞

北大院生、企業DX後押し

新年度から派遣事業

データ分析を支援 道内への就職期待

「共同研究型インターンシップ」の流れ

北大が博士課程の学生に必要なスキルを教育

地域企業が抱える解決したい課題を提示

登録学生と企業をマッチング

民間アドバイザーが学生にDX指導

学生と企業に派遣、データ分析などで支援

※学生はアドバイザーと連絡可能な状態に

北海道新聞朝刊１面トップ
（2024年1月22日）

20240701 朝刊 （総合）

北海道新聞

デジタル院生 中小派遣始動

北大、企業の課題解決

初年度は22社参加

共同研究型インターンの顔合わせで、阿部裕之社長（左）から業務課題の説明を受ける北大院生（右2人）＝6月17日（中村裕子撮影）

北海道新聞朝刊総合２面
（2024年7月1日）

PART 3

博士学生、ゴルフ場の集客を分析

企業で「輝く博士」育成へ大学も変わる

産業界で活躍する博士が少ない日本。責任の一端は大学側にもある。博士はアカデミアの人材という風潮が定着し、キャリアパスは限られてきた。その能力を求める企業との接点をつくれば、博士は様々な場所で輝ける。

北海道大学

博士課程学生が地域企業をDX

割引プランの減少は、若年層の需要に特に大きな影響を与えている――。北海道内で3つのゴルフ場を経営する札幌カントリー倶楽部（札幌市）の経営陣に対して、北海道大学の学生たちがこんな分析を示した。

2024年9月20日、真駒内カントリークラブ（同市）で行われた研究成果の発表会では、学生による「ゴルフにどれだけの時間をかけたいか」というアンケートの結果も紹介。利用者を増やす策として、道内の若年層に向けて9ホール（通常は18ホール）をプレーする割安なプランの創設を提案した。

75万件のデータ分析

札幌カントリー倶楽部は近年、収入の最適化のための割引を減らしていた。山崎繁樹社長はこの戦略について「影響を受けていたのが若者なのか、リーズナブルなプレーを求める客層だったのか、はっきりしていなかった」と話す。学生の分析が「考え方の入り口を広げてくれた」と称賛した。

18～24年のゴルフ場利用者に関する75万件を超えるデータを分析したのは、北大の博士後期課程（博士課程）3年の花房竜馬さん

地域企業の課題解決に取り組む

●共同研究型インターンシップの流れ

参加企業がDX課題を提示

民間のDXアドバイザーを決定

学生と企業をマッチング

DXアドバイザーが学生にDX教育

学生が企業の課題解決に取り組む

北海道大学の博士課程で学ぶ花房竜馬さんは、インターンを受け入れた札幌カントリー倶楽部の山崎繁樹社長

022 NIKKEI BUSINESS 2024.10.14

日経ビジネス（特集：博士を生かせ）
（2024年10月14日号）

2025　ORACLE　DX入門セミナー　4月22日（火）16:00ー17:00 開催（Zoom）

●2025年度大学院共通授業科目

「DX提案実践演習１」（富良野市・石狩市）【北大生のみ】

「DX提案実践演習２」（登別市・名寄市）【北大生のみ】

「DX課題解決実践演習」（企業）【北大生・室工生】

※室蘭工業大学の学生は、学務課にて詳細を確認してください。

●2025年度大学院共通授業科目

「DX提案実践演習１」（富良野市・石狩市）【北大生のみ】

「DX提案実践演習２」（登別市・名寄市）【北大生のみ】

「DX課題解決実践演習」（企業）【北大生・室工生】

「DX提案実践演習2」（登別市・名寄市）の事業イメージ

パナソニックITS㈱の「室蘭MaaSプロジェクト」

買い物送迎プロジェクト

病院送迎プロジェクト

ゴミ収集効率化プロジェクト

学生相乗りプロジェクト

高速バス連携プロジェクト

※新規事業のため、説明会開催の希望が多数あれば、
「DX提案実践演習2」に限定した
5/28（水）（時間未定）
に開催することを検討。

※参加希望アンケートに回答願います。

事務的な説明事項（北海道大学）

本取組は、「大学院共通授業科目」の授業科目として開講

- 通常の履修登録期間での履修登録が必要
- 通年(５月ぐらい～12月ぐらい)の集中講義(２単位)科目として開講
- 派遣先企業の希望調査を行うため、説明会終了後、意向確認用のフォームを送信するので、参加を希望する派遣先企業（第1希望～第３希望まで選択可能）を選んで申請
- 派遣先企業へ行くための旅費、宿泊費は支給（給与や謝金は支給しません。）

◆選択必修の取組

いずれかのプログラムに参加し、一定のポイントを獲得することが必要
（目安：１単位１ポイント）

共創教育プログラム	or	海外共修プログラム
・共同研究型インターンシップ ・他大学合同合宿の参加 ・サイエンスフェスタの参加 など		・国際インターンシップ ・ラーニングサテライト ・海外研究室訪問 など

今後の手続き（北大･室工大共通）

説明会参加者へ共同研究型インターンシップの「参加申込フォーム」を送信

- 本説明会お申し込み時のメールアドレスに送信済みです。

▼

参加希望者は、企業PR資料を見て、派遣希望先企業を第１希望から第３希望まで選択し、フォームを送信